

会 議 録

会議の名称	日向市公共施設等総合管理計画策定市民検討委員会（第3回）
開催日時	平成28年6月29日（水）14時00分から15時10分まで
開催場所	日向市庁舎 第4委員会室
出席者	<p>【委員】 釘宮昌平（公募委員）、川畑孝博（公募委員）、沖田實美（日向市区長公民館長連合会会長）、椎葉哲男（日向市PTA協議会会長）、黒木一彦（日向市社会福祉協議会常務理事兼事務局長）、山本達雄（日向市観光協会事務局長）、中西八千代（日向市男女共同参画社会づくり推進ルーム協議会運営委員）</p> <p>上記委員のうち1名（F委員）が都合により出席できなかったため、7月6日（水）14時から別途事務局による意見聴取を行いました。</p> <p>【事務局】 日高章司（財政課長）、押川克久（財政課資産経営係長）、中原友美（財政課資産経営係）</p>
議 題	会議資料「会議レジュメ」のとおり
会議資料の名称及び内容	1 会議レジュメ（会次第） 2 会議資料 （1）日向市公共施設等総合管理計画（案）について （2）「日向市公共施設等総合管理計画」策定に関する検討結果報告書（案） 3 別紙資料（第2回会議録）
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
1 開会 2 議事 （1）日向市公共施設等総合管理計画（案）について 議事について、事務局から計画（案）の内容説明。主な質疑、意見等は次のとおり。 （A委員）次の市の総合計画の計画期間は8年となる予定ですが、今回の日向市公共施設等総合管理計画（以下「総合管理計画」という。）の計画期間が30年であること等、総合計画と総合管理計画の関係を整理しておいた方が良いと思います。また、フォローアップにおいて進捗状況を検証するのが公共施設マネジメント推進会議となっていますが、市民参画の視点も必要だと思います。最後に、施設類型ごとの管理に関する基本的な考え方のところ、学校施設は「将来を担う子どもたちの大切な居場所の一つ」という表現となっていますが、「地域コミュニティの核の一つ」等の地域の中で重要な位置付けであることを抑えておく必要があると思います。 （委員長）区公連の会議でも学校を核とした地域の取り組みや高齢者への対応が必要ではないかという話が出ています。 （事務局）最上位計画である総合計画と総合管理計画との整合性をとることは当然のこととして進めていきたいと考えています。また、フォローアップに際しての市民参画の視点は必要であると考	

えておりますが、具体的な手法等については、今後の総合管理計画の推進とあわせて考えていきたいと思っております。最後の学校施設の地域コミュニティの核としての役割については記載する方向で考えていきます。

(B委員) 計画期間30年についてですが、今は10年でも一昔となる状況でありますので、5年程度の短いスパンでの目標を定めて取り組んでいく必要があると思っております。また、公共施設の運営(ソフト面)には、市民参画が必要であります。他自治体の公共施設では、民間事業者等の参画により、使用料の適正化や様々な教室・人が利用する等、使いやすくなっている事例もありますが、その部分に関する方針等がないと思っております。

(事務局) 総合管理計画の計画期間は30年ですが、5年ごとの見直しを行っていきたくて考えております。また、市民参画・公民連携に関しては、維持管理の実施方針の中で位置付けているところです。

(B委員) 日向市における公民連携(P P P)については、少し弱い部分があるかと思っておりますので、ガイドライン等の作成をお願いしたいと思っております。

(C委員) 基本理念の中で「将来世代に負担を残さない」という表現がありますが、夢や希望を持ってもらえるような表現にした方が良くと思っております。また、今回の総合管理計画の中で、「統合」、「集約」、「複合化」という言葉が出てきますが、「集約」や「複合化」は「統合」に含まれると思っておりますので、文言の統一をお願いします。最後に、施設類型ごとの管理に関する基本的な方針の中で、「学校施設」、「公営住宅施設」、「その他の施設」の3つにまとめた考え方を教えてください。

(事務局) 「統合」、「集約」、「複合化」については、再度その定義等を含めて整理させていただきたいと思っております。また、施設類型ごとの管理に関する基本的な考え方での施設のまとめ方についてですが、実際の管理上は、より細かく分類を定めています。しかし、この箇所での考え方としては、建物系施設の中の約7割の面積を占める「学校施設」、「公営住宅施設」と「その他の施設」ということで考えたところです。

(D委員) 基本理念の「将来世代に負担を残さない」という表現ですが、前回会議の「身の丈にあった」と比較すると良いと思っております。先ほどの夢や希望を持たせるというのも良い考え方であると思っております。また、前回会議において、数値目標はより厳しいものでも良いという意見があったかと思っておりますが、今後どのように取り扱われるのが教えてください。さらに、市民アンケートの結果では、3割程度の人しか回答をしていないため、もう少し幅広く意見を聞く必要があると思っております。最後に、「統廃合」という言葉は、施設が無くなってしまおうという印象を受けるので「集約」、「複合化」の方が妥当だと思っております。

(事務局) 基本理念については、これまでに説明してきた公共施設を取り巻く現状や課題を踏まえ、市民の皆さんにとってわかりやすいものになりたいと考えております。数値目標の設定や文言を含めて、検討委員会の意見として、改めて庁内の推進会議等において検討させていただきます。

(E委員) 先ほどご意見でもありましたとおり、私も学校は「地域コミュニティの核」であると思っております。全国では、学校の統廃合後、NPO法人等が活躍し、観光関係、地域づくり関係で施設を活用している事例が多くあります。また、計画期間30年の間に、10年あるいは5年ごとの見直しは必要だと思っております。本当に時代が早く動くので、NPOや団体、市民のみならずと活用を考えることで、時代に合った形で進むのではないかと思います。

(委員長) 各地区にある公園については、公共施設マネジメントの対象になるのでしょうか。樹木が大きくなり、見通しが悪くなること等で青少年の非行につながっている状況があると思っております。

(事務局) 公園についても公共施設マネジメントの対象と位置付けております。また、樹木の問題をはじめ、トイレの洋式化等も重要であると認識しておりますので、厳しい財政状況ではあります

が、順次対応していければと考えております。

(F委員) 学校施設については、地域コミュニティでの役割を考え過ぎると統廃合が進まないこともあるかと思えます。幸脇小学校では、保護者としては、多くの子どもがいる環境で勉強させたいという希望があり、やむを得ないという思いだったようですが、閉校日が近づくと、地域の方々から様々な意見が出たようであり、統廃合の難しさを感じます。また、30年間の計画となりますが、30年が経過すると、児童生徒数の状況等が全く異なってくる可能性があります。子育ては「地域」全体で見守ることが重要ですが、この「地域」は現在の「区」単位であるという意識が強いと思えます。市全体のこと、将来のことを見据えた取り組みが必要であると思えます。最後に、将来に向けた夢が持てるような計画とすることも重要であると思えますが、人口や税収が減っていくことで、今と同じようなお金の使い方はできなくなりますので、そこを考えて見直しを行っていくことを伝える視点も必要だと思えます。

(2) 検討委員会報告書(案)について

事務局から報告書(案)の内容を説明。主な質疑、意見は次のとおり。

(A委員) 公共施設は、「災害時における避難場所」とともに、「災害復興支援の場所」としても重要でありますので、この点を含めていただきたいと思えます。また、少子高齢化の進行により増加する社会保障費を抑制するためには、高齢者が元気であることが重要です。「高齢者が安全・安心で活動できる総合的な公共施設の充実」という内容も入れていただければと思えます。

(B委員) 市民・民間事業者との連携の部分の公共施設における行政サービスについて、例えばキャンプ場では、本来、教育やレジャーに関するサービスが提供されるべきであります。現状では、草刈り等の管理を行うのみの雇用の場となっており、利用者も少ないです。他自治体では、教育や観光等の関係団体が指定管理者となり、人を集める取り組みを行っています。また、行政サービスの担い手として市民・民間事業者と連携することは、コスト削減にもつながりますので、コストの見直しとしても取り組んでいく必要があると思えます。最後に、施設カルテを見ていると、東郷地区の一部の施設・建物が漏れているものがあるのではないかとと思うので確認をお願いします。

(A委員) 保有量の最適化の部分で、「高い目標」という表現がありますが、「高い」というとポジティブな印象なので、思い切って削減を推進していく意味からも、違う表現を考えた方が良いと思えます。

(D委員) 報告書(案)については、これまでの各委員の様々な意見がまとまっていると思えます。

(委員長) 市民アンケートでは、施設の利用率が低いということがわかります。利用手続きの簡素化、利用基準の見直し等による施設の利用率を上げる方策・視点も必要ではないかと思えます。

(C委員) 処分・廃止の対象には土地も含まれるのでしょうか。

(事務局) 公共施設マネジメントにおいては、土地についてもマネジメントしていくこととしておりますが、数値目標の対象等、見直しの中心は建物になります。減らしていくことと合わせて、運営方法等を見直していくこともマネジメントの一つであると認識しています。

(F委員) 市全体として施設を減らしていくということになるが、自分たちの地域の施設が対象ということになると難しくなってきます。年齢や立場で発想も意見も全く異なってきます。どうしても目先のことばかりを考えがちですが、長期的な視点をもって、今を見直すことが必要だと思えます。

3 その他

事務局から今後のスケジュールについて説明。

今回の会議で出された意見等を踏まえて、検討結果報告書の最終案を作成し、次回の会議で承認をいただき、検討結果報告書として市長へ報告する予定。

次回会議は、8月上旬で改めて調整する。